

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
地上業務委員会(第34回) 議事概要(案)

1 開催日時

平成27年5月25日(月) 15:00~16:40

2 場所

合同庁舎2号館 総務省10階 1002会議室

3 出席者(敬称略、順不同)

[専門委員]

三瓶 政一(主査)、小川 博世(主査代理)、足立 朋子、飯塚 留美、小笠原 守、川口 さち子、
阪田 史郎、佐藤 孝平、田北 順二、橋本 明、松永 彰

[関係者]

新((株)NTTドコモ)、菅田(KDDI(株))、本多(エリクソン・ジャパン(株))、石川((株)日立製作
所)

[事務局]

森下、大村、圓谷

4 配付資料

資料地-34-1	地上業務委員会(第33回)議事要旨(案)
資料地-34-2	ITU-R SG5 WP5D会合報告書(案)
資料地-34-3	ITU-R SG5 WP5D会合への日本寄与文書(案)
資料地-34-4	ITU-R SG5 WP5D会合への対処方針(案)
参考資料1	ITU-R SG5 WP5D会合の開催案内
参考資料2	ITU-R SG5 WP5D会合の日本代表団一覧
参考資料3	地上業務委員会構成員名簿

5 議事概要

(1)地上業務委員会(第32回)の議事要旨について

【資料地-34-1】

地上業務委員会(第32回)の議事要旨について、事務局から後日メールで送付する旨説明
があった。

(2)ITU-R SG5 WP5D第21回会合報告について

【資料地-34-2】

事務局から、ITU-R SG5 WP5D第21回会合の報告後、以下のコメント及び質疑応答があった。

三 瓶 主 査 : Beyond 2020 Ad hocについて、エリクソンなどが2020年以降のトラヒック推定は無理と言っていたが、推定できているのか。トラヒックは外挿か、それとも他の要素を加味しての推定か。

新 氏 : エリクソン、アルカテルルーセント、中国等からトラヒック推定について入力があり、レポートにまとめることとなった。推定には、外挿も含め色々なパターンがある。

三 瓶 主 査 : IMT-2020 connectにこだわりを示したのはなぜなのか。

事務局(大村): AT&Tの寄与文書として、WP5D議長のMr. Blustがconnectを提案した。

佐藤構成員: PP-14のConnect-2020というセッション名も影響しているのではないか。

新 氏 : IMT-2020には韓国が難色を示しているため、妥協案としてconnectを付けた形としている。

三 瓶 主 査 : 短縮形でIMT-2020でもOKというはということか。

新 氏 : IMT-2020で十分だという意見を尊重しているため。いずれにせよ名称は第22回会合で決めなければならない。

(3)ITU-R SG5関連会合への日本寄与文書(案)について

【資料地-34-3-1】

NTTドコモ 新氏から「暫定新勧告案ITU-R M.[IMT.VISION]への修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員: 2003年にVISIONという名前の勧告(M.1645: IMT-2000の将来の開発とsystems beyond IMT-2000のフレームワーク)が総会に提出され、visionはrecommendするべきではない、という意見によりタイトルから外されたが、今回はどこの提案で勧告タイトルにvisionという言葉が入ったのか。

新 氏 : 経緯はわからないが、現在、議論に上がらない。

松永構成員: 最初はvisionという名称に議論があった。[]書きになった後は、その是非は問われていない。

主 査 : 4Gと異なり、visionがないと5Gの道筋が見えないので勧告名にvisionが必要という確認の議論が必要なのではないか。

橋本構成員: 4Gでは必要なく、5Gではvisionが必要というロジックは難しい。今回は総会に

提出する予定はなくSGでの採択後承認手続きを行う、タイトル以外には使われておらずvisionが消されても問題ないはず。日本としては、visionという言葉にこだわらないというスタンスでよいのではないか。

【資料地-34-3-2】

NTTドコモ 新氏から「暫定新決議案ITU-R [IMT.PRINCIPLES]への修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

足立 構 成 員： タイトルは2020 and beyondまでの期間限定という意味か。また、IMT-2020か connect付けた名称との整合性どうとるのか。

新 氏： 期間限定である。第21回会合で韓国が出した案に乗った形である。

三 瓶 主 査： IMTと書き、実際の名称は明確に出さないということか。

新 氏： その通りである。

【資料地-34-3-3】

NTTドコモ 新氏から「暫定修正決議案ITU-R 56-1への修正提案」に関する作業文書への修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本 構 成 員： IMT-2020が好ましいと主張しつつ、重要なのは合意を得ることと考えているようだが、2つに絞られた案以外でも受け入れ可能なのか。

新 氏： IMT-2020で合意を得られると予想している。however以降は削除してもよいと思う。

橋本 構 成 員： satellite componentの部分について、今回は4Bと5Dの開催期間が重複するため、通常のリエゾンの応酬ができないので、効率的にWPレベルで合意を得る必要があると思う。

三 瓶 主 査： IMT-2020がよいなら、一番主張したいことを絞り込んで書いてはどうか。

新 氏： however以降を削除する。

足立 構 成 員： 合意の形成が目的ならば、最初にその旨記載してはどうか。

新 氏： howeverの文章を最初に移動させ、日本としてIMT-2020を推す、という主張が明確になるよう修正する。

【資料地-34-3-4】

NTTドコモ 剛氏から「WRC決議および勧告で要請されている研究の進捗に関するWP議長からSG5議長への報告のテキスト案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本 構 成 員： GENで取り扱われるべきということなら、「基本的にGENで扱う」を言わないと

introduction4段落目でother groupsと書いてあるが、「other」の意味が不明確であると思う。また、その次のconfirmed with the concerning working group(s)は、confirmed by the concerned working group(s)とすべき。

研 氏 : GENIに割当てられるべき、と本文中で明確にして修正する。

橋本構成員 : WP議長がとりまとめてSG5会合に出す文書なので、タイトルからchairmanを削除し、to SG5とすべき。

三瓶主査 : 活動報告後は、どうするのか。

研 氏 : SG議長からRAへ報告される。

橋本構成員 : 決議の見直しはWRCで行われ、前回WRCで出た宿題をどの程度こなしたかを報告することで、決議の見直しの進捗を確認している。

三瓶主査 : HAPSについて議論がなかったというが、終わったからなのか、中断しているから入力できなかったのか。

研 氏 : 終わったわけではなく中断している。誤解を与えないよう修正する。

【資料地-34-3-5】

NTTドコモ 新氏から「暫定新報告案ITU-R M.[IMT. ABOVE 6GHZ]への修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査 : 5章のパラメータは指摘したらすぐに修正できるのか。

新 氏 : 軽微な計算なので可能。

足立構成員 : 5.1のタイトルがoutdoor-to-outdoor coverage and link budgetで、その下の5.1.1のタイトルがoutdoor-to-indoor coverageだが、どういう関係か。

新 氏 : 前者の意図がわからなかったが、指摘するようにする。

三瓶主査 : P16のタイトルでイタリック体としているのは、慣例なのか。

新 氏 : 太字の章の文字に対して、delay spreadやchannel modelについて分類する意図でイタリック体としている。

小川構成員 : Annex 2 A2.1 (P33) millimetric waveという表現があるが、millimeterとはしないのは何か意図があるのか。他のSGではmillimeterが使われている。

新 氏 : 他の部分でmillimetricとしており、この部分も準じている。過去の議論はわからないが、ITU-RのVocabularyの勧告で使用されているのはmillimetric waveであり、それに従っているのだと思われる。

三瓶主査 : 学術的にはmillimeter waveなので、統一する方がよい。

小川構成員 : 5Dでも今後ミリ波の議論も行っていくと思われる。今後のことも考え、日本として文章を出すときは統一してみてもどうか。

橋本構成員 : 用語について問題提起し、作業はBRに任せたほうがよい。

【資料地-34-3-6】

エリクソン 本多氏から「PDN Report ITU-R M.[IMT.ARCH]の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三 瓶 主 査： 対象としているネットワークはLTEなのか。

本 多 氏： LTE、LTE-Advancedまで含み、その先は含まれていない。

三 瓶 主 査： 今回最終化するということだが、内容としてまとまっているのか。

本 多 氏 ある程度完成しており、introductionやconclusionを補強している。

橋本構成員： 本レポートは5Gでのレポート作業と並行している。5Gではまだ作業文書で、次回で完成しない場合は、引用部分をSG5で修正をして承認することになる。

三 瓶 主 査： 単独でSG5に行くということか。

橋本構成員： 5Dで承認されれば、単独でもSG5に上程される。

【資料地-34-3-7】

日立製作所 石川氏から「IMT-2020関連文書の担当WGに関する提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員： Deliverableの担当グループを提案しているが、これらの文書作成については5Dの中で合意されているのか。

石 川 氏： この10個の文章はAdhoc workplanの中で検討され、2回議長報告に記載され、作成文章自体は合意されている。

橋本構成員： introductionの中で、詳細は5Dで完全に合意されていないように読めるが、日本としてはよいのか。

石 川 氏： 完成まで時間がなく、前回はベースとするのが効率的と考えた。

橋本構成員： introductionに日本としてこれらの文書作成を基本的にサポートする旨盛り込んでどうか。

石 川 氏 howeverを消し、その旨明確にする。

【資料地-34-3-8】

日立製作所 石川氏から「IMT-2020関連新Reportに関するWorkplanの提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三 瓶 主 査： スケジュールや項目は5Dの中ではどの程度の合意がとれているのか。

石 川 氏： IMT-Advancedで議論があった項目をリストアップしている。IMT-2020で新たな議論項目が追加されることもやぶさかではない。

三 瓶 主 査： 4Gと5Gでは評価条件及び評価項目が変わるはず。要求条件の書き方には

注意が必要。

【資料地－34－3－9】

日立製作所 石川氏から「IMT-2020関連文書(IMT-2020 Process)に関する提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員：新しい文書のシリーズはいつ頃出版されるのか。

石川氏： backgroundの文章が[IMT.ADV]相当で、完成時期は2016年6月の第24回会合である。

三瓶主査： IMT-Advancedが決まったときのフレームワークを元にはしていると思うが、IMT-2020の要求条件の設定方法は異なるのではないだろうか。

石川氏： 進め方は、VISION側で大まかな形の合意を形成が必要。

三瓶主査： WRC-15では6GHz以下、WRC-19ではそれ以上の周波数で議論されるということだが、IMT-2020の要求条件はどこまでを想定して進めるのか。

石川氏： 2016年最初のWP5Dで項目を決めるときに議論となると思う。どこの部分にWRC-19で決められる新しい周波数帯への対応を盛り込むのがよいのか、全体的に考える。6GHz以上で大きく要求条件が変化するのなら、新しいIMTが必要と認識している。

三瓶主査： 周波数が異なれば、性質は異なる。周波数が決まらなければパラメータが残り、どう取り扱うかは大きな議論になると思うので、適切に対応してほしい。

(4)ITU-R SG5 WP5D第22回会合への対処方針案について

【資料地－34－4】

事務局より、ITU-R SG5 WP5D会合への対処方針(案)について説明が行われ、承認された。

(5)その他

事務局より参考資料の説明があった。

本日の審議を経て、修正の必要がある寄与文書については、5月27日(水)までに事務局に提出することになった。

また、承認された寄与文書について、大きく主旨の変更がない限りは、文書案の変更の可能性がある旨、事務局から了承を求め、承認された。

外国寄与文書の対応については、日本代表団を中心に外国寄与文書審議表を作成し、対処に用いることとする旨説明があり、承認された。

以上